

第3回「トイレ設置数の基準と適用のあり方に関する協議会」 議事概要

日時：令和8年3月13日（金）10：00～12：00

場所：中央合同庁舎3号館10階共用会議室（ハイブリッド開催）

議事：（1）第2回協議会におけるご意見等について
（2）ガイドライン（案）について

【議事概要】

（座長より挨拶）

議事（1）第2回協議会におけるご意見等について

（事務局より資料説明）

【委員・関係者からの意見等】

- 特になし

議事（2）ガイドライン（案）について

（事務局より資料説明）

【委員・関係者からの意見等】

<「第1章 現状と課題」について>

- 一時的に行列が発生するトイレについて（p.3）
 - ・ 頻繁かつ継続的に行列が発生するものについては、単に一時的な事象とするのではなく、解決すべき課題とすべきではないか。
 - ・ 当方が管理している施設では、ゴールデンウィークや正月のような特定の日を除き、行列が発生しないトイレを整備したいと考えている。
- 男性の小用時における個室と小便器の利用意向について（p.5）
 - ・ 今後、男性用トイレを全て個室とした場合の占有時間のデータも必要になるのではないかな。
 - ・ 現状、男性用トイレを全て個室とした場合の占有時間のデータはない。関連して、個室であっても、男性は立って排泄する場合と座って排泄する場合があります、その割合についても調査が必要になるのではないかな。
 - ・ 個室での基本的な動作にどれだけ時間がかかるのかといった動作実験を含む基礎的な調査が必要になるのではないかな。
- 面積的・予算的な制約、設備上の制約について（p.11）
 - ・ 結びの表現については、改善を促す前向きなものとした方がよいのではないかな。

<「第2章 便器数の基準と適用のあり方」について>

○ 基準の点検・見直しを行う際の基本的な考え方について (p.13、14)

- ・ 本ガイドラインにおいて、便器数の数値基準が示されることを期待している人もいるのではないかと。あくまでも、基準の点検・見直しの基本的な考え方を示すものであることを、強調した方がよいのではないかと。
- ・ 男性大便器の占有時間が大幅に長い実態などを踏まえると、待ち時間を平等にするために試算した結果として、必ずしも女性便器数が男性便器数以上とならない場合がある。男性大便器のあり方については、引き続き検討する必要があると考えている。
- ・ 男性用トイレは大便器と小便器で分かれており、占有時間が大きく異なる。また、女性用トイレは大便器のみを使うため、占有時間のばらつきが大きくなる。こうした実態がある中で、待ち時間の平等をどう捉えるのかは難しい問題である。
- ・ 待ち時間の平等という理念は重要である一方、大便器の待ち時間を0秒にすることなどは現実的ではないため、何をもって待ち時間の平等とするかは、引き続き議論が必要であるとする。「女性便器数が男性便器数以上となる」という部分の表現については、もう少し工夫があってもよいのではないかと。
- ・ 「利用者が概ね男女同数である施設」とあるが、一般に、施設の利用者の男女比は把握されていないのではないかと。
- ・ 当方が管理している施設では、施設を訪れたすべての人がトイレを利用する傾向にあるため、施設を訪れた人をカウントすることで、利用者の男女比を把握している。
- ・ 当方が管理している施設では、数年前に混雑しやすいトイレや特徴的なトイレを対象に調査を実施した。直近では、改修を行うトイレを対象に調査を実施している。
- ・ 当方が管理している施設では、具体的に調査を行っているか承知していない。
- ・ 当方が管理している施設では、トイレ環境の整備に関する指針を策定する際に、主要なトイレを対象に調査を実施した。また、それ以外の対象のトイレについては、施設利用者数を把握することで、概ねのトイレ利用者数を把握していると聞いている。
- ・ スタジアムのトイレの改修においては、現地で調査を実施している。また、スタジアムのトイレの面積は限られ、改修により面積を広げることは難しい。そのため、動線計画やサイン表示で工夫している。
- ・ ガイドラインの焦点がぼやけるため、p.14の「なお、あくまでも①で示したとおり、…」の段落については脚注に記載することを検討してもよいのではないかと。

○ 中長期的な視点について (p.13)

- ・ 中長期的な視点が何を指しているのか曖昧である。脚注などで具体的に記載すべきではないかと。
- ・ 中長期的な視点においては、各施設管理者が考える将来のターゲット層も考慮する必要があるのではないかと。また、トイレは頻繁に改修等ができないため、長いスパンで利用者像を見据えることが重要ではないかと。
- ・ ①の基本的な考え方と同様に、②の基本的な考え方においても中長期的な視点で検討

することが必要ではないか。

- ・ トイレの行列問題は、目下の問題であるため、足元の状況を大事にしながら、中長期的な視点でも検討することが重要ではないか。

○ データの収集・反映について (p. 16~18)

- ・ 収集したデータについて、基準の策定などにどのように活かしていくのか明確にしておくべきではないか。
- ・ 各事業者によって、データの内容が異なるのではないか。また、実際の待ち時間について、これまで十分に把握できていないと感じる。データのとり方についても、今後もう一步進んだアイデアがあればよいと考える。
- ・ 誰がどのようにデータを集約するのかについて考えるべきではないか。
- ・ 施設の設計又は管理する者がデータを確認できる環境を整えればよいと考える。
- ・ ガイドラインのデータには、少し古いものも含まれている。コロナ前後では、人々の行動が変化しているため、可能な限り最新のデータを活用すべきではないか。
- ・ 映画館のトイレは、客席の数で便器数が算出されているが、近年の映画館は上映時間が分散化されており、集中利用されにくくなっている。施設の用途にあった便器数を設置してもらえるように、留意する必要があると考える。

<「第3章 行列改善に向けた取組」について>

○ 空き状況の可視化について (p. 24)

- ・ 「サバンナ効果」について、写真を掲載すると理解しやすいのではないか。

○ 地域内のトイレの連携について (p. 27)

- ・ 実際に取り組む中では、管理者の協力を得ることが難しかった。一方、取組を通じて、トイレのニーズを可視化することができた。そのため、データを把握することができる利点を活かしつつ、行政がうまく介入することで円滑に進むこともあるのではないか。

<その他、ガイドライン全体について>

- ・ 「トイレ」とはトイレのエリアを指しているのか、便房を指しているのか。用語について、整理しておく必要があるのではないか。
- ・ 今後は、本ガイドラインが対象とする不特定多数の者が利用する施設以外に、避難所となるような学校等のトイレの検討にもつながっていくとよいと考える。

(委員・関係者のご意見を踏まえたガイドライン(案)の修正は、座長一任とされた。)

(総合政策局長より挨拶)

以上